

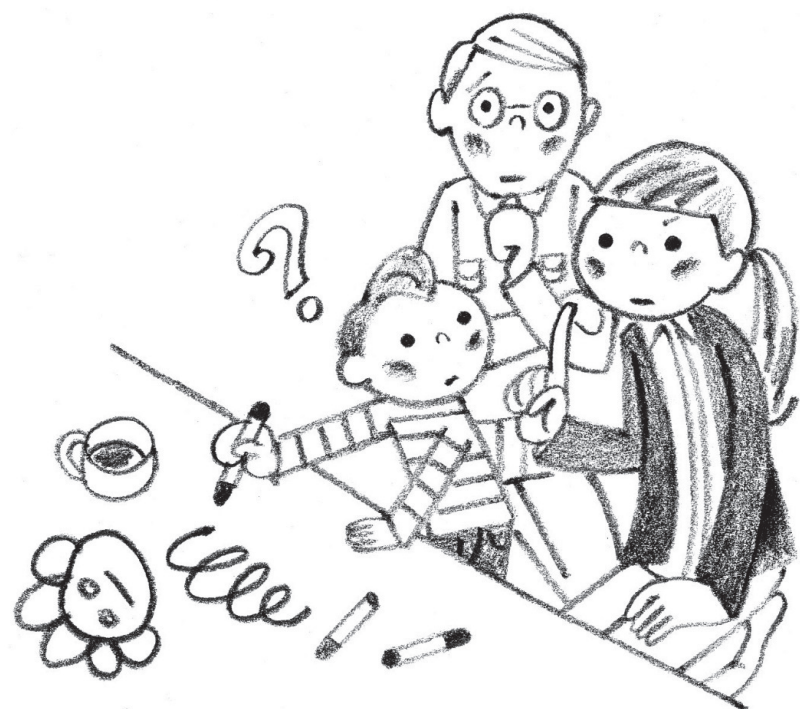
# CSP

Common Sense Parenting

## コモンセンス・ペアレンティング

それはダメ！これもダメ！  
 どうしてそういうことばかりするの！  
 怒れば怒るほど、イライラしてしまう。  
 この悪循環、どうしたらいいの……。

親子の気持ちが通じ合う  
 注意のしかたは？



子どもの良い行動を増やし  
 問題行動を減らすしつけ方を学んだり、  
 心を通わせるコミュニケーション力を  
 身につけたり。

親と子の信頼関係を育て、  
 グッドサイクルを生み出します。

## プログラムの概要

神奈川県県民局次世代育成部子ども家庭課

### 【CSP とは】

「コモンセンス・ペアレンティング（CSP＝Common Sense Parenting）」は、米国ネブラスカ州の児童福祉施設「ボーイズタウン」で開発された、被虐待児の養育者支援のプログラムである。

CSPでは、養育者と子どもとのコミュニケーションに注目し、子どもとの関係性にグッドサイクル（良い循環）を実現させるように子どもをしつける方法を教える。

具体的には、養育者自身が子どもとうまくコミュニケーションする方法を身に付けることから、子どもの問題行動を減少させ、そのことにより、養育者の苛立ちが減少し、その結果、ほめる・教えるといった適切な対応がとれるようになり、子どもとの関係性が改善し、よりよいコミュニケーションを強めるといったグッドサイクルを生み出す。

### 【具体的なプログラム内容】

養育者が子どもとの関係にグッドサイクル（良い循環）を生み出すための方法として、6つのプログラムがある。内容は下の表のとおり。

| プログラム                      | ゴール                                                      |
|----------------------------|----------------------------------------------------------|
| ①わかりやすいコミュニケーション（行動の観察と表現） | 子どもの行動に対し、抽象的な言葉を使わずに具体的に表現する方法を身につける。                   |
| ②良い結果・悪い結果（賞・罰）            | 行動の後の結果（親の対応）に注目し、子どもの良い行動を増やし、悪い行動を減らす方法を身につける。         |
| ③効果的な誉め方                   | 効果的に誉める方法を身につける。                                         |
| ④予防的教育法                    | 前もって子どもに言ってきかせる方法を身につける。                                 |
| ⑤問題行動を正す教育法                | 子どもの問題行動に介入する方法を身につける。                                   |
| ⑥自分自身をコントロールする教育法          | 子どもが感情的になって反抗したり、泣き叫んだり、すねたりといった親子の緊張が高まる場面での対処方法を身につける。 |

### 【実際の講座の内容・構成】

実際のCSPの講座では、フォローアップを入れて7回を2週間位あけながら行い、全プログラムを2～3か月程で修了する。1回の講座の構成は、次のとおり。

- 1) 復習（前回習ったプログラムのまとめ、1回目は導入）
- 2) プログラムの紹介（その日取り上げるプログラムの講義）
- 3) DVDによるモデリング学習（DVDでは良い例、悪い例などの実際がそれぞれのプログラムに応じて収録されており、具体的に学ぶことが可能となっています）
- 4) ロールプレイ
- 5) まとめ

プログラムでは、視聴覚教材を用いたモデリング学習とロールプレイを重視しており、経験的な学習が可能となるため、しつけのスキルの習得が容易であると多くの方から支持を得ている。

### 【日本での実施状況】

日本では、1999年に野口啓示氏によって紹介され、2005年に日本の子育て事情に合わせてアレンジを加えた「神戸少年の町版CSP」が作成され、児童相談所、市町村、児童養護施設などで広く普及・

実践されている。

また、幼児や低年齢の子どもが虐待を受けることが多い状況をうけ、CSP幼児版の普及・実践もあわせて進められている。

### 【本県での取り組み経過について】

県（県中央児童相談所虐待対策支援課）は、市町村の後方支援として、平成23年度・平成24年度の2か年にわたり、茅ヶ崎市と協働し、県所管の市町村児童家庭相談窓口等の職員を対象とした「虐待防止実践トレーナー養成講座」（以下、「養成講座」）を開催した。

そこでは、CSPトレーナーを養成し、茅ヶ崎市における講座開設・運営等のノウハウを普及することで、県所管全域の虐待対応力の向上に取り組んできた。

養成講座では、19自治体（11市8町）の36名の職員がトレーナー資格を取得し、各自治体の児童福祉や母子保健等の主管課が、子育て支援、児童虐待の発生予防、虐待対応などを目的に、地域の実情に応じて、試行錯誤しながら講座開催等に取り組んでいる。

平成25年12月時点で17自治体（11市6町）が、

子育て中の保護者や子どもに関わる関係機関向けにCSPの講座または研修を実施しており、今後さらに実施自治体は増える見込みである。

また、平成24年度以降、養成講座修了者を対象とした、「CSPトレーナーフォローアップ研修会」を年3回（概ね6月、10月、2月）開催し、各自治体での講座、研修等の実施状況の情報交換、支援者のネットワークづくり、スキルアップ等に取り組んでいる。

その中で、各自治体から、プログラム実施の効果について、受講者に対する簡易なアンケート調査の結果より、講座受講後に育児の負担感の軽減があること、また、受講者の生の声や、講座内でトレーナーとなる職員の実感としても同様の効果があるとの報告をいただいている。

## 第2章

### 導入にあたっての 留意点

